

めいもく 公共施設！

5分で読める
公共施設のこと

問い合わせ
企画政策課 内線224



公共施設マネジメントシリーズ

No.8 まつさか「三重県松阪市」学校と公民館「統廃合」のお話

東浦町だけでなく、全国で公共施設の老朽化が問題となっています。町でも、老朽化した公共施設の運用を考えるにあたり、学校やコミュニティセンターをはじめ、様々な施設を複合化していくことが考えられます。

今回は、老朽化した学校と公民館を建て替える際に統合した、三重県松阪市立鎌田中学校の事例を紹介します。



01 校舎に公民館機能を複合・集約

松阪市立鎌田中学校は、老朽化した校舎を建て替えるときに、公民館機能を複合・集約することで中学校と地域の活動が共存、両立できるように設計されました。

中学校＋公民館

3階	<学校専用> 普通教室、多目的室など
2階	<共用スペース> メディアスペース、多目的室、少人数学習室、P C室、理科室、特別支援教室、カウンセリング室 など
1階	<学校専用スペース> 校長室、職員室、放送室、保健室、給食配膳室など <共用スペース> メディアスペース、家庭科室、地域交流スペース、多目的ホール、音楽室、技術室、美術室など



提供：松阪市

1、2階の音楽室や美術室、多目的室などを共有することで、公民館機能を有し、地域住民でも活用できる建物になっています。メディアスペースをはじめ、様々なところで生徒と地域住民の交流を図ることができるようになっています。

3層吹抜とメディアスペース

明るさを意識した教室

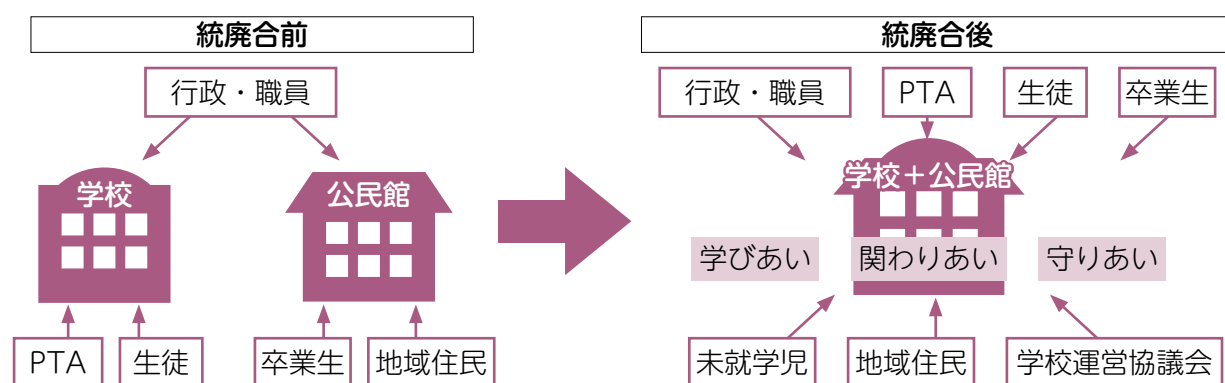
見通しの良い中庭



鎌田中学校の実際の写真(提供:松阪市)

02 東浦町にもこんな施設があったらいいな

松阪市では、地域と学校との関わりあいを深めたいとの思いから、学校と公民館を統廃合させたそうです。



「場所」が違うことでバラバラに集まり、それぞれの関わりが薄くなりがち…

学校を「核」として集約することで老若男女、すべての近隣住民がともに学び、関わり、守りあうことができる。

03 こんな考え方が大切です

マイナス×マイナス＝プラスの発想

行政任せではなく、
地域や住民任せでもなく、
みんなで一緒に取り組むことが大切です。

公共施設を「減らす」という考え方ではなく、例えば「学校を核に、他の公共施設を集約する」という「プラス」の発想も大切です。建物を統合することをきっかけに、地域や世代を超えた関わりあいを深めることができるかもしれません。

04 東浦町の公共施設で考えてみると…

町の公共施設を見てみると、小学校、中学校、老人憩の家、児童館、コミュニティセンターが点在しています。「今」ある施設を「同じ姿のまま」維持し続けることは不可能です。

松阪市の事例を、東浦町に置き換えてみると、老人憩の家、児童館、コミュニティセンターといった施設をま

とめて、これらの機能を併せ持った学校を作ることが例として考えることができます。

鎌田中学校のように、様々な施設がひとつになれば、未来を切り開く子どもたちや一時代を築いてきた地域の皆さんがお互いを守りあう・学びあうことで、持続可能な施設や地域にしていけることができると考えています。

施設マネジメント キーポイント①

統合する場合は、双方の活動が共存・両立できるように考えましょう。

施設マネジメント キーポイント②

行政、地域や住民任せではなく、一緒に取り組んでいきましょう。